

野村アセットマネジメント

NOMURA

INVESTOR INSIGHTS 2025 (リタイアメント)

—リタイアメントに関する意識調査—

2026年4月

資産運用研究所

金融資本市場の力で、世界と共に挑戦し、豊かな社会を実現する

We aspire to create a better world by harnessing the power of financial markets

STRICTLY PRIVATE
AND CONFIDENTIAL

© Nomura

目次

調査概要	2		
調査結果の主な要点	3		
I リタイアメント層の意識 – 老後は幸せか –	4	IV リタイアメント層の「3つの寿命」 – 見えない資産寿命 –	16
リタイアメント層の幸福度	5	3つの寿命の想定	17
将来への不安	6	生命・健康・資産寿命（男女別）	18
		金融資産額と資産寿命	19
II リタイアメント層の資産と収入 – リタイア前後のお金の計画 –	7	生命寿命 VS 資産寿命	20
リタイアメント時の目標金融資産額	8		
リタイアメント時の目標金融資産額（世帯収入別）	9	V リタイアメント層のお金の使い方 – 実はお金を使いたい？ –	21
現役時代と比較したリタイア後の収入・支出の割合	10	取り崩し金額	22
III リタイアメント層の就労状況 – 生きるために働く –	11	取り崩しの方針	23
就労状況	12	現在使っているお金	24
働く理由	13	使って良かったお金・使って後悔したお金	25
働く理由と幸福度	14	資産承継の方針	26
働く理由と幸福度（金融資産額・世帯収入別）	15		

調査概要

- 調査目的 : リタイアメント層の生活の実態、資産運用状況を含めた経済状況、今後の資産管理に関する課題やニーズを明らかにする。
 なお、本調査におけるリタイアメント層は60代以上を指し、準リタイアメント層として50代も対象とする。
- 調査手法 : インターネット調査
- 調査対象 : 50歳以上・男女個人・関連業種の従事者（金融業界、市場調査、マスコミ、広告代理店）は除外
- 有効回収数 : 10,710サンプル（回収ベース）エリア×性別×年代の母集団準拠で回収
- 調査地域 : 全国
- 調査時期 : 2025年10月24日（金）～2025年10月28日（火）

区分	項目	サンプル数	構成比	区分	項目	サンプル数	構成比	区分	項目	サンプル数	構成比
全体	合計	10,710	100%	年間収入	わからない・答えたくない	3,831	36%	金融資産（※2）	わからない・答えたくない	5,325	50%
年齢	50～54歳	1,911	18%	(世帯)	0円（ない）	167	2%	(世帯)	0円（ない）	663	6%
	55～59歳	1,757	16%		300万円未満	2,244	21%		300万円未満	1,295	12%
	60～64歳	1,657	15%		300万円～500万円未満	2,069	19%		300万円～500万円未満	471	4%
	65～69歳	1,816	17%		500万円～700万円未満	932	9%		500万円～700万円未満	253	2%
	70～74歳	2,009	19%		700万円～1,000万円未満	830	8%		700万円～1,000万円未満	386	4%
	75～79歳	1,560	15%		1,000万円～1,500万円未満	392	4%		1,000万円～1,500万円未満	409	4%
	年齢区分	リタイアメント層（60～79歳）	7,042		66%	1,500万円～2,000万円未満	107		1%	1,500万円～2,000万円未満	388
	準リタイアメント層（50～59歳）	3,668	34%	2,000万円～5,000万円未満	89	1%	2,000万円～5,000万円未満	982	9%		
性別	男性	5,188	48%	5,000万円以上	49	0%	5,000万円～1億円未満	377	4%		
	女性	5,522	52%				1億円以上	161	2%		
職業別	会社員・公務員等	3,228	30%	地域別	北海道/東北	1,289	12%	投資家別	投資家（※3）	2,266	48%
	自営・自由業	611	6%		関東	3,497	33%		非投資家	2,456	52%
	パート・アルバイト	1,673	16%		北陸/信越	674	6%	投信保有別	投信保有者（※4）	1,142	24%
	専業主婦・主夫	1,999	19%		東海	1,208	11%		投信非保有者	3,580	76%
	無職他	3,088	29%		近畿	1,716	16%				
	その他	111	1%		中国	670	6%				
就労区分	就労者（※1）	5,623	53%	四国	399	4%					
	非就労者	5,087	47%	九州/沖縄	1,257	12%					

※1 就労者とは、職業について「会社員・公務員等」、「自営・自由業」、「パート・アルバイト」、「その他」を合計した者

※2 金融資産とは、貯蓄額・金融資産（預貯金、有価証券など。不動産は除く）の合計

※3 投資家とは、「現在、あなたの世帯の金融資産は、どのような金融商品の配分になっていますか。合わせて100%になるようにお答えください」という設問で、「外貨預金」「国内株式」「海外株式」「国内債券」「海外債券」「投資信託（ETF、J-REITを含む）」、「その他（FXなどを含む）」等のいずれかに1%以上と回答した者（以下、同）。金融資産の金額について「わからない・答えたくない」「0円（ない）」とした5,988人を除いた4,722人を対象として集計。

※4 投信保有者とは、「現在、あなたの世帯の金融資産は、どのような金融商品の配分になっていますか。合わせて100%になるようにお答えください」という設問で、「投資信託（ETF、J-REITを含む）」に1%以上と回答した者（以下、同）。金融資産の金額について「わからない・答えたくない」「0円（ない）」とした5,988人を除いた4,722人を対象として集計。

※5 本資料において、特に記載のない限り、各数値は小数点第1位を四捨五入した整数で表示。回答の割合を四捨五入して表示していることにより、内訳の合計が100%にならない場合がある

当資料は調査の内容を開示することを目的として野村アセットマネジメントが作成したものです。投資勧誘を目的とした資料ではありません。当資料は信頼できると考えられる情報に基づいて作成しております。当資料に示された内容等は、当資料作成日現在の当社の見解であり、事前の連絡なしに変更されることがあります。当資料中のいかなる内容も将来の投資収益を示唆ないし保証するものではありません。また特定の銘柄の推奨や売買等を示唆するものではありません。

調査結果の主な要点

I : リタイアメント層の意識 – 老後は幸せか –

- 自己評価の幸福度は年代が上がるほど高く、50代（準リタイアメント層）が最も低い。将来への不安は主に健康面。生活資金に対する不安も強いが、年代が上がるにつれ不安に思う人の割合は低下する（P5、6）。

II : リタイアメント層の資産と収入 – リタイア前後のお金の計画 –

- 全体の約67%がリタイア時の目標金融資産額を定めておらず、50代の目標額は高めで年齢とともに低下。収入・支出の見通しについては、50代で就労中の人は、リタイア後の収入および支出が平均して現在の約6割になると見積もっている。一方、60歳以上で退職済みの人は、収入が現役時の3～4割、支出が5～6割になったと回答（P8、10）。

III : リタイアメント層の就労状況 – 生きるために働く –

- 65歳以上でも一定割合が何らかの仕事についている。働く理由を確認すると、50～60代は「生活資金を得るため」とする人が多い。70代は「生きがいのため」の比率が多くなる。ただし、75～79歳で就労中の人の4割が生活資金のために働いていると回答している。なお、生きがいのために働く人の方が幸福度が高く、同条件でも動機で幸福度に差が出る（P12、13、14、15）。

IV : リタイアメント層の「3つの寿命」 – 見えない資産寿命 –

- 全体の約5割が自身の資産寿命の想定がついていない。50代は想定生命寿命が実際の平均寿命より短いほか、資産寿命と生命寿命のギャップが目立つ。自身が想定する資産寿命が生命寿命を上回ると幸福度が高くなる（P17、18、20）。

V : リタイアメント層のお金の使い方 – 実はお金を使いたい？ –

- 金融資産の取り崩しに対して明確な方針をもっている人は少ない。リタイアメント層でも趣味や娯楽にお金を使っている人が多く見られる。資産承継に関しては「考えていない」人が多いが、考えている人の中では「自分で使う」志向が目立つ（リタイアメント層の約39%）（P23、24、26）。

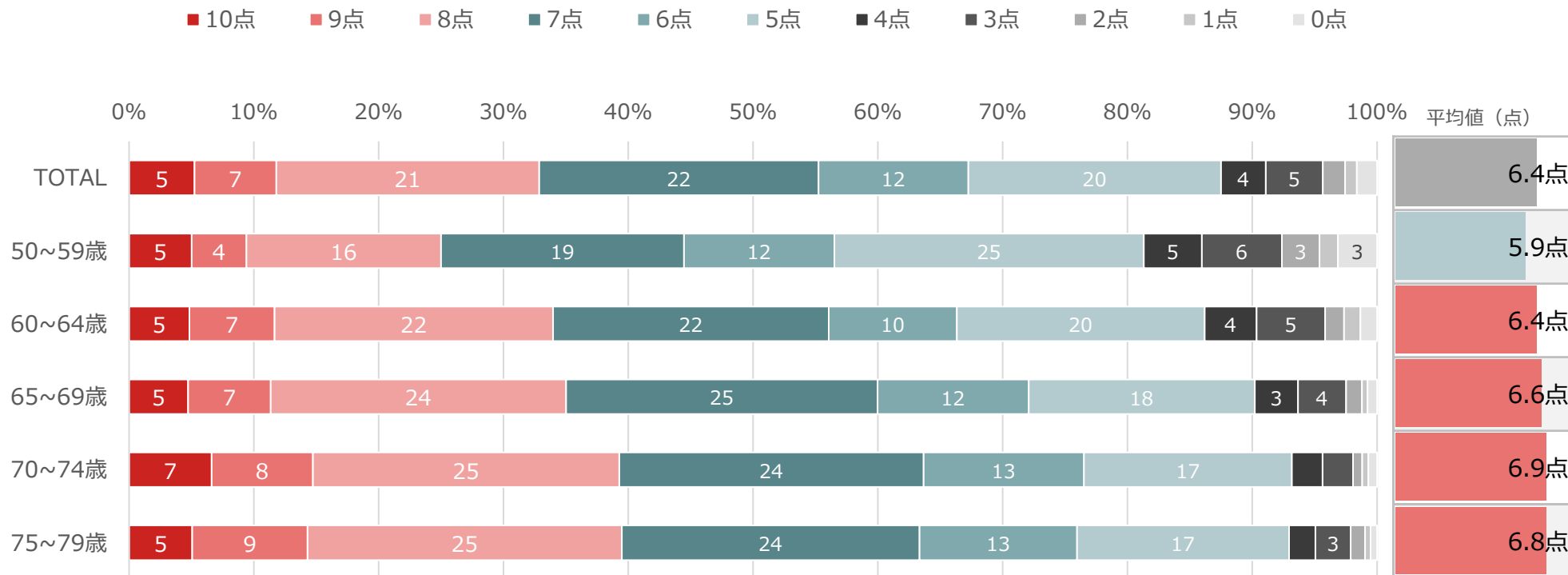
I リタイアメント層の意識

－ 老後は幸せか －

リタイアメント層の幸福度

- 幸福度を数値化（「非常に幸福」を10点、「非常に不幸」を0点とし、0～10点で回答）。平均値は準リタイアメント層である50～59歳が最も低く、年代が上がるにつれ、幸福度が高い人の割合が上がる
- いずれの年代においても5～7点とする回答が、半数以上を占める

Q) あなたは、ふだん、どのくらい幸福だと感じていますか。「非常に幸福」を10点、「非常に不幸」を0点として、あてはまるものを1つ選んでお知らせください。（単一回答 全体 n=10,710）



※3%未満非表示（以下、同）

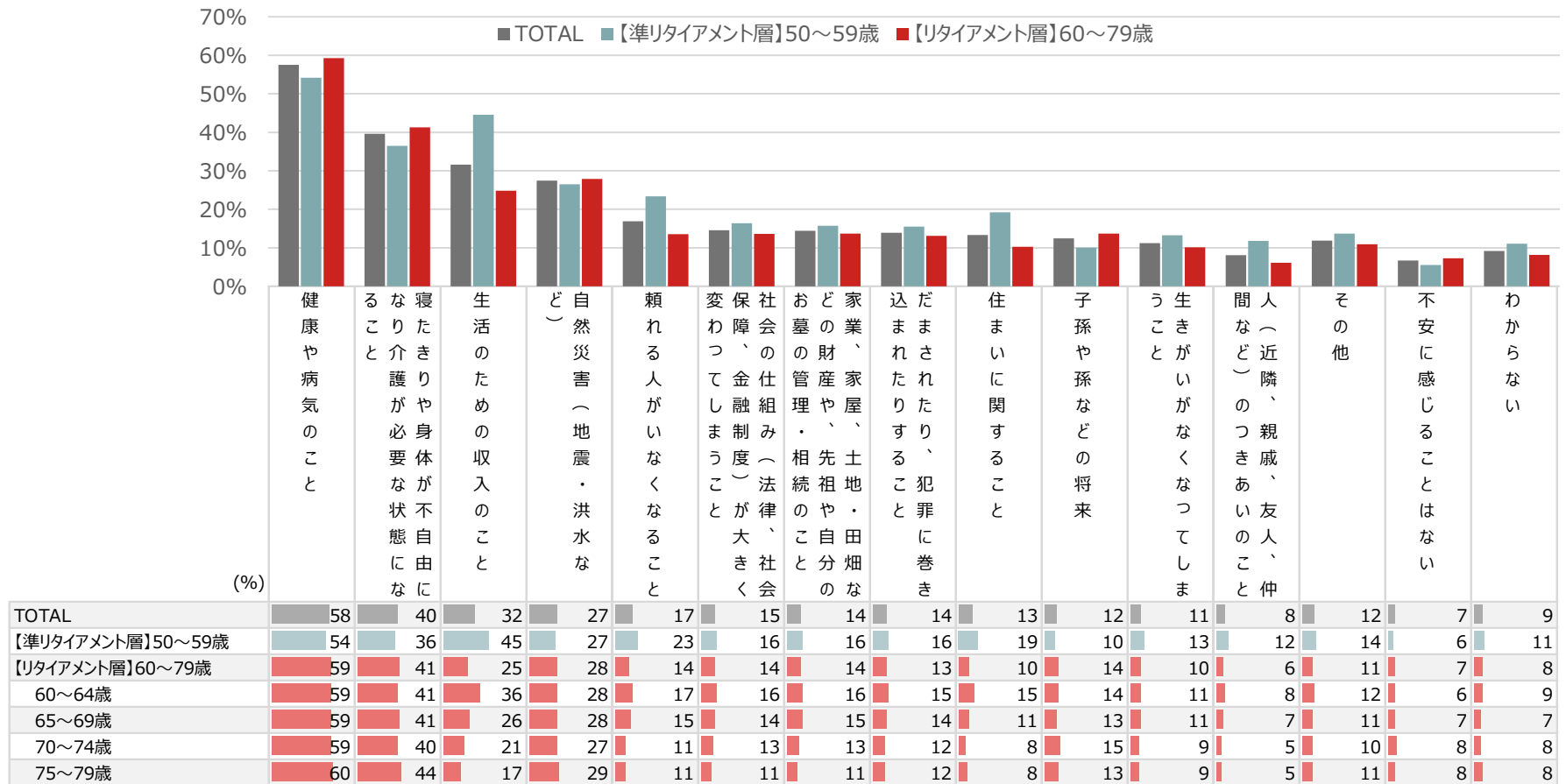
※平均値（点）は小数点第1位まで表示（以下、同）

当資料は調査の内容を開示することを目的として野村アセットマネジメントが作成したものです。投資勧誘を目的とした資料ではありません。当資料は信頼できると考えられる情報に基づいて作成しております。当資料に示された内容等は、当資料作成日現在の当社の見解であり、事前の連絡なしに変更されることがあります。当資料中のいかなる内容も将来の投資収益を示唆ないし保証するものではありません。また特定の銘柄の推奨や売買等を示唆するものではありません。

将来への不安

- リタイアメント層、準リタイアメント層ともに「健康面」に不安を感じる割合が高い
- リタイアメント層と準リタイアメント層で割合の差が最も大きいのは「生活のための収入」。年代が上がるにつれて不安に思う割合は低下

Q) あなたが感じている「将来への不安」について、あてはまるものをすべてお答えください。（複数回答 全体 n=10,710）



当資料は調査の内容を開示することを目的として野村アセットマネジメントが作成したものです。投資勧誘を目的とした資料ではありません。当資料は信頼できると考えられる情報に基づいて作成しております。当資料に示された内容等は、当資料作成日現在の当社の見解であり、事前の連絡なしに変更されることがあります。当資料中のいかなる内容も将来の投資収益を示唆ないし保証するものではありません。また特定の銘柄の推奨や売買等を示唆するものではありません。

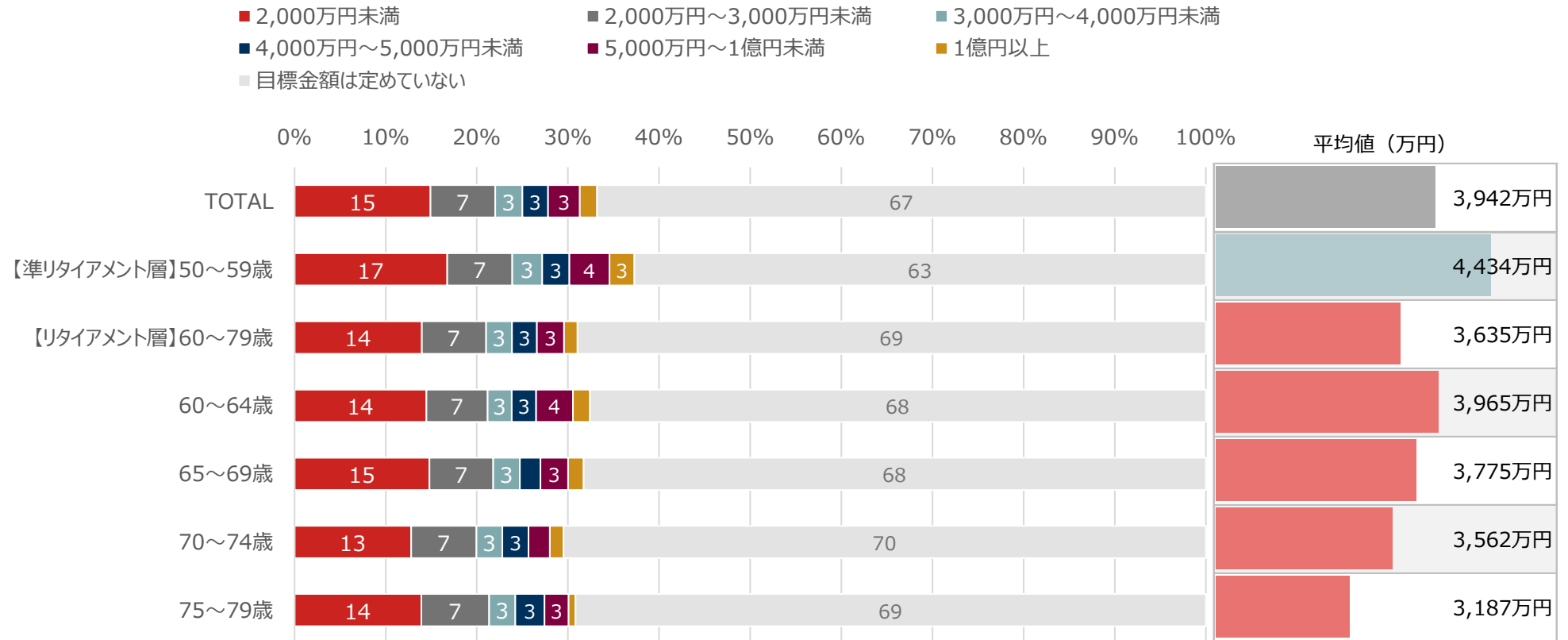
Ⅱ リタイアメント層の資産と収入

－ リタイア前後のお金の計画 －

リタイアメント時の目標金融資産額

- リタイアメント時に目標金融資産額を「定めている人」は33%、「定めていない人」は67%
- 目標を定めている人を見ると、割合は2,000万円未満と回答した人が最も多い。目標金額の平均は、全体で約4,000万円

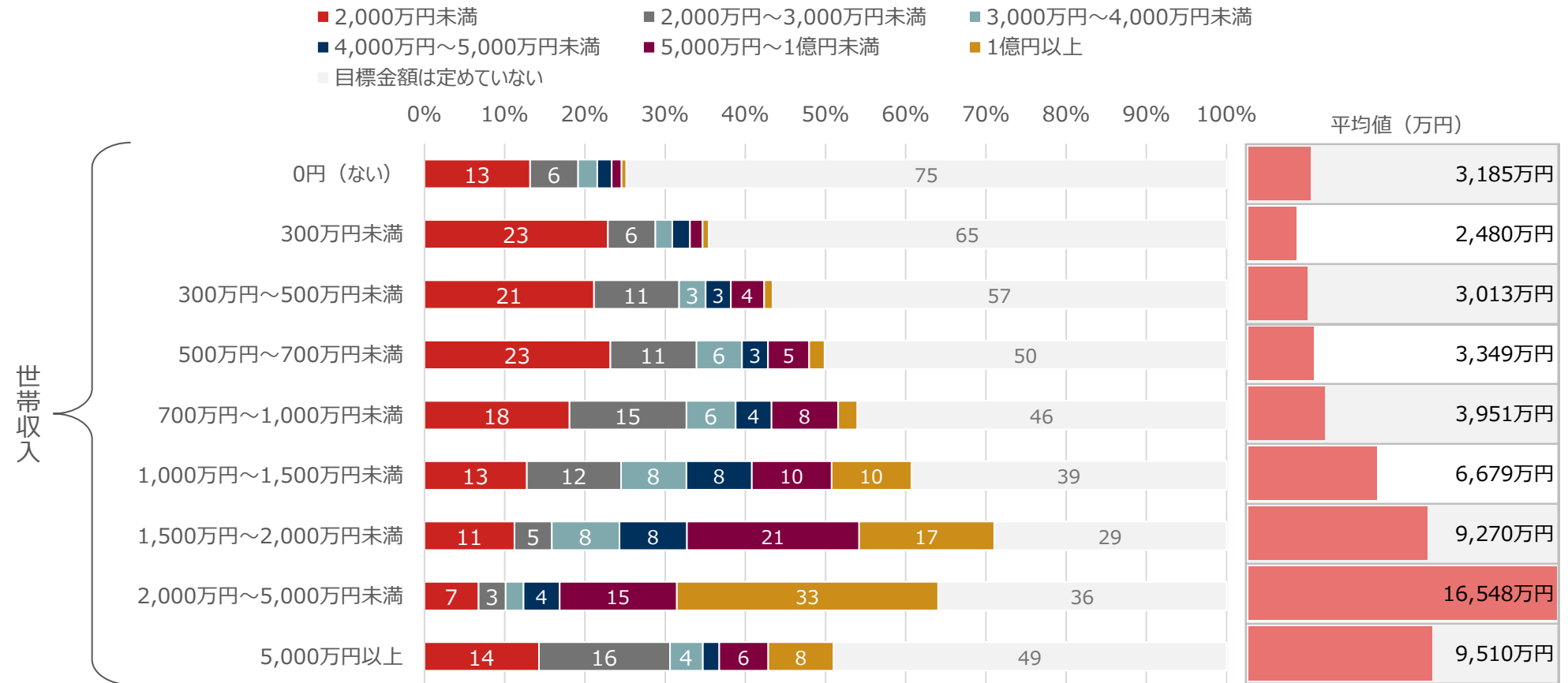
Q) リタイアする時点での金融資産の目標金額を定めていましたか。それはいくらですか。現役の方は今の目標金額をお答えください。(単一回答 全体 n=10,710)



リタイアメント時の目標金融資産額（世帯収入別）

- 世帯収入が増加するにつれ、目標金融資産額の平均値は増加。世帯収入が2,000万円～5,000万円未満の人の平均目標金額が突出して高い
- 世帯収入が増加するにつれ、「目標金額は定めていない」の割合は減少。ただし2,000万円以上でその割合は再び増加

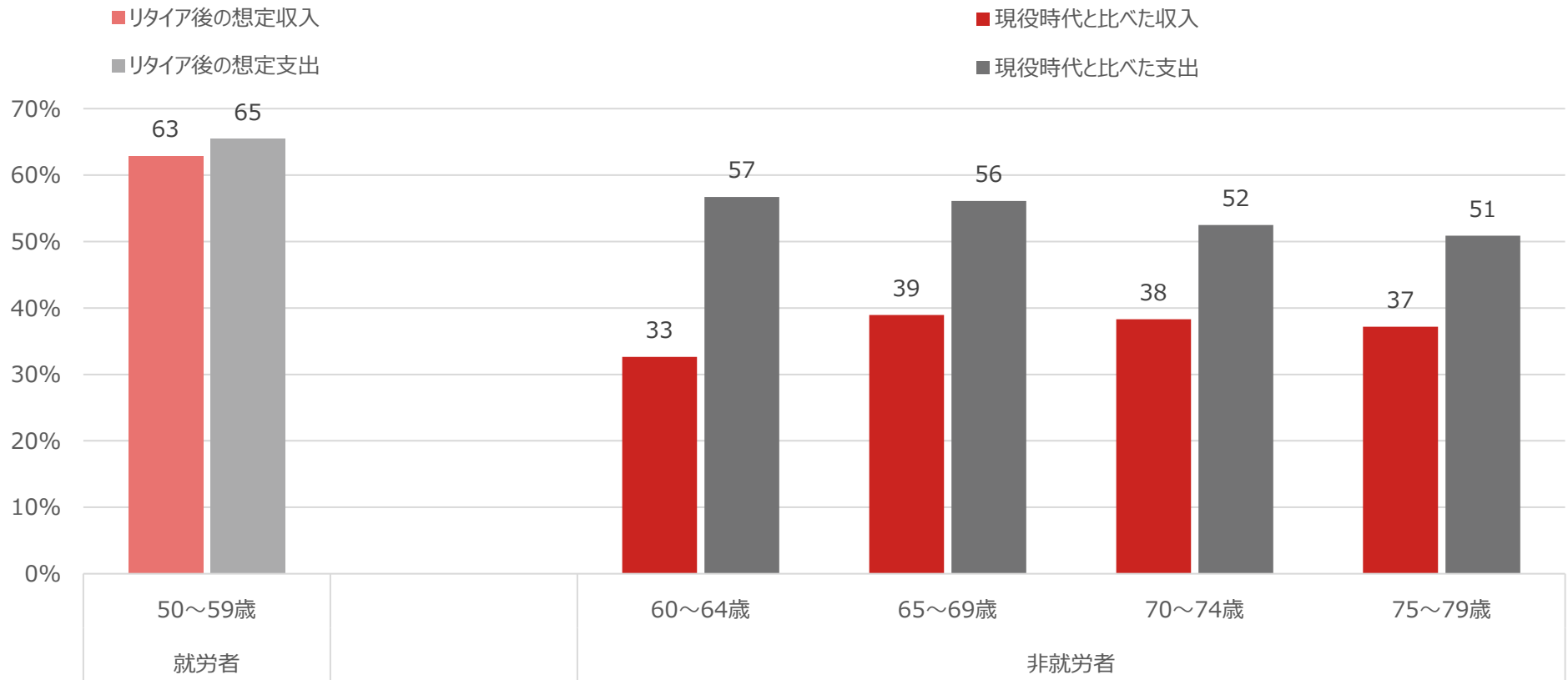
世帯収入別 目標金融資産額分布（「世帯収入」について「わからない等」を除く n=6,879）



現役時代と比較したリタイア後の収入・支出の割合

- 「60歳以上の非就労者」は現在の収入・支出（生活費）が、現役時代の約3～4割・約5～6割となっている
- 一方、「50～59歳の就労者」は、リタイア後の収入・支出がそれぞれ現在の約6割になると予想している

Q) 現役時代の収入を100%とすると現在の収入は約何%になっていますか。同じく現役時代の生活費を100%とすると現在の生活費は約何%になっていますか。現役の方はリタイア後に何%程度になりそうかをお答えください。(単一回答 50～59歳の就労者 n=2,949 / 60歳以上の非就労者 n=4,368)



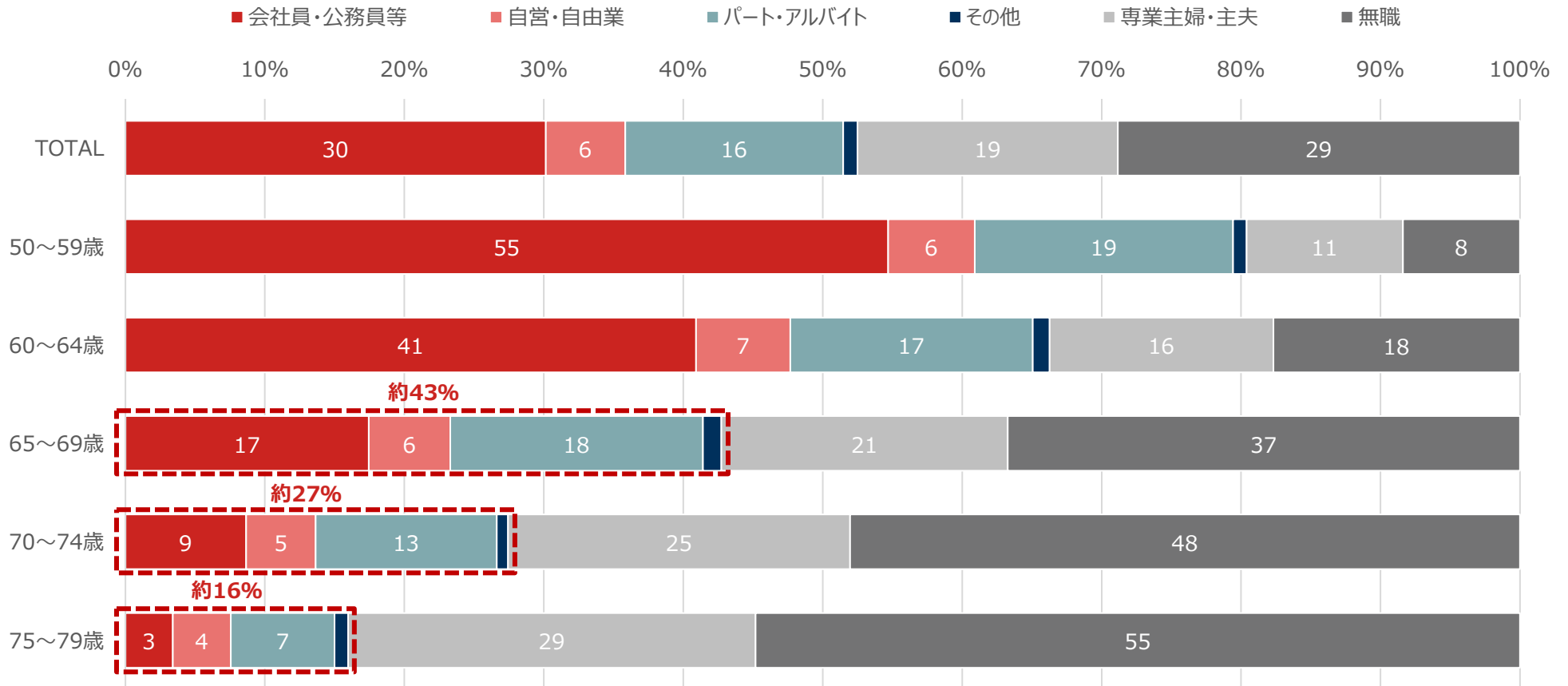
Ⅲ リタイアメント層の就労状況

－ 生きるために働く －

就労状況

■ 専業主婦・主夫、無職を除いた、就労者の割合は、65～69歳で約43%、70～74歳で約27%、75～79歳で約16%

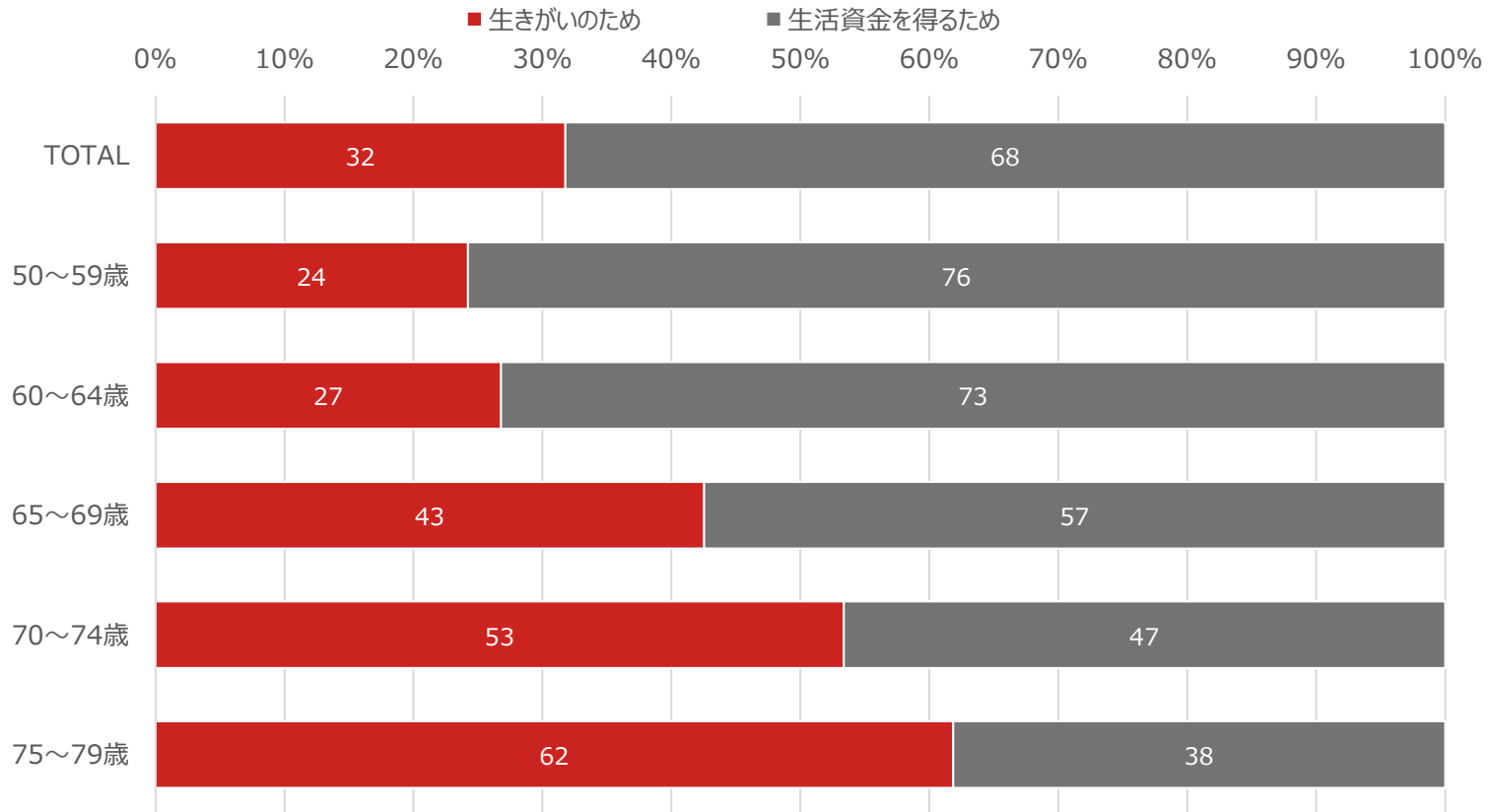
Q) あなたの現在の職業について、最も近いものをお選びください。（単一回答 全体 n=10,710）



働く理由

- 就労者が働く理由としては、「生活資金を得るため」が多い。年代が上がるにつれて、「生きがいのため」の割合が増加

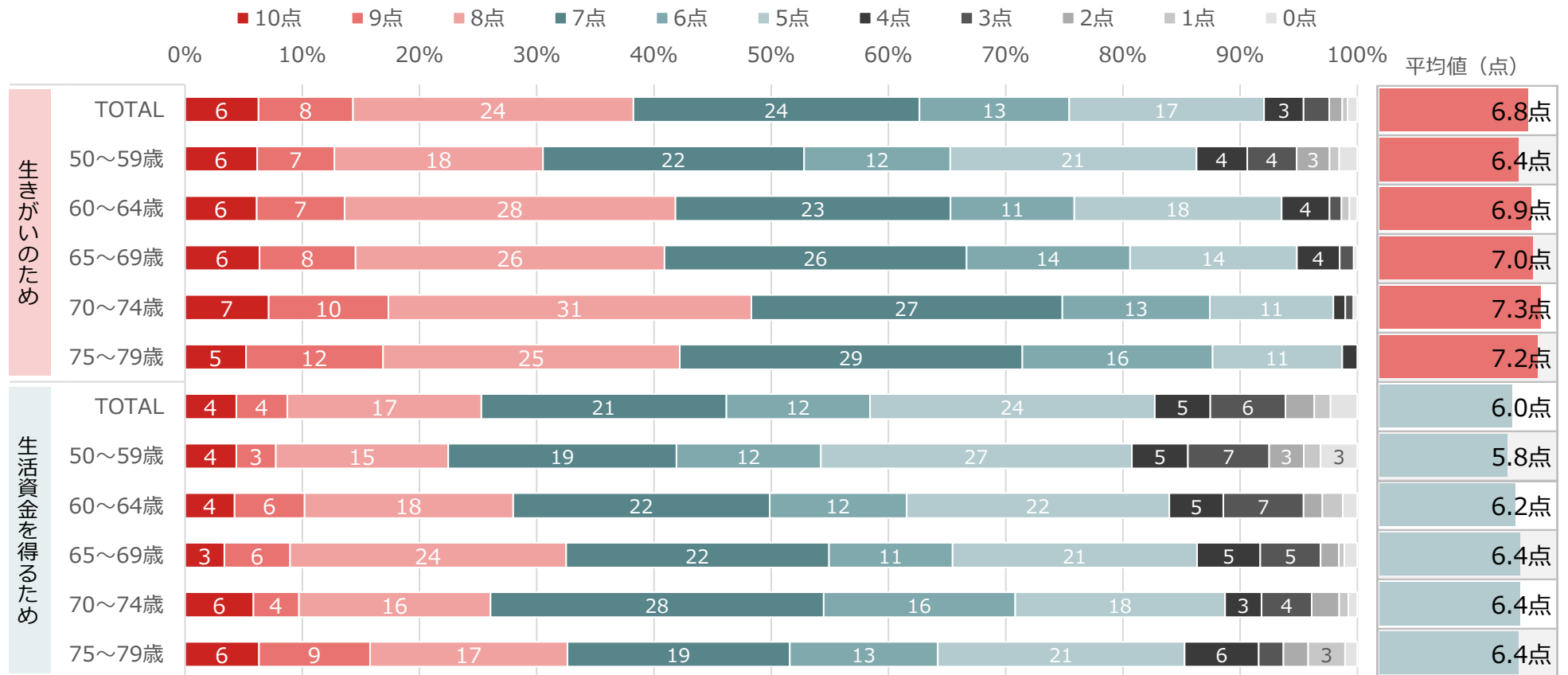
Q) あなたは今後何歳まで働きたいですか。退職済みの場合は何歳まで働いていましたか。※ ●歳まで働きたい（生活資金を得るために or 生きがいのために）（数値回答 就労者 n=5,623）



働く理由と幸福度

- 就労者の働く理由別に幸福度を見ると、「生活資金を得るため」と回答した人よりも「生きがいのため」と回答した人の方が幸福度がどの年代においても高い

働く理由と幸福度 (就労者 n=5,623)



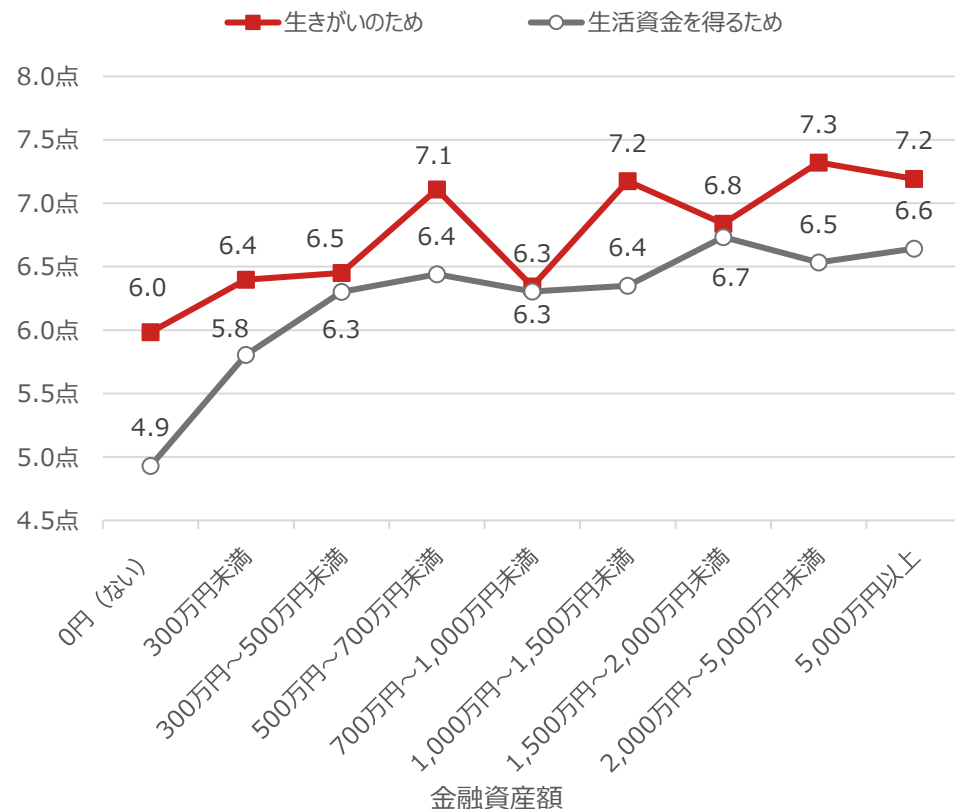
当資料は調査の内容を開示することを目的として野村アセットマネジメントが作成したものです。投資勧誘を目的とした資料ではありません。当資料は信頼できると考えられる情報に基づいて作成しております。当資料に示された内容等は、当資料作成日現在の当社の見解であり、事前の連絡なしに変更されることがあります。当資料中のいかなる内容も将来の投資収益を示唆ないし保証するものではありません。また特定の銘柄の推奨や売買等を示唆するものではありません。

働く理由と幸福度（金融資産額・世帯収入別）

- 同じ金融資産額区分や世帯収入区分で比較しても、「生きがいのため」と回答した人の方が「生活資金を得るため」と回答した人よりも幸福度が高い傾向にある
- 「生活資金を得るため」に働いている人は世帯収入が2,000万円以上になると幸福度が低下する結果となった

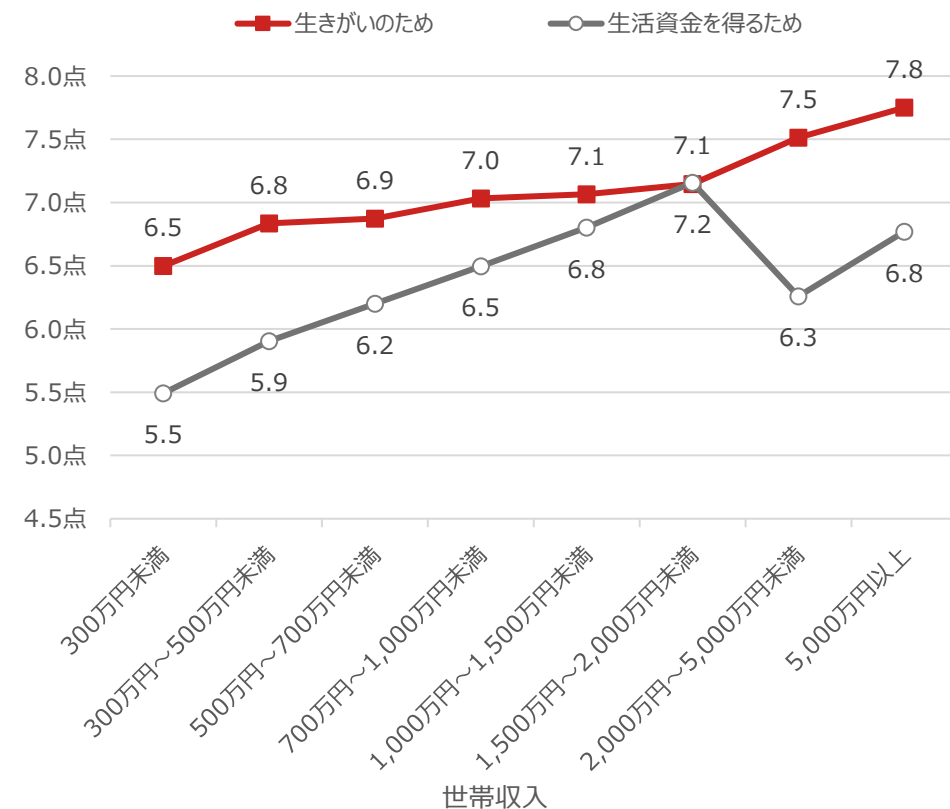
金融資産額別 働く理由と幸福度

（金融資産額について「わからない等」を除く就労者 n=2,949）



世帯収入別 働く理由と幸福度

（世帯収入について「わからない等」を除く就労者 n=3,708）



※0円（ない）はサンプル数僅少のため掲載せず

当資料は調査の内容を開示することを目的として野村アセットマネジメントが作成したものです。投資勧誘を目的とした資料ではありません。当資料は信頼できると考えられる情報に基づいて作成しております。当資料に示された内容等は、当資料作成日現在の当社の見解であり、事前の連絡なしに変更されることがあります。当資料中のいかなる内容も将来の投資収益を示唆ないし保証するものではありません。また特定の銘柄の推奨や売買等を示唆するものではありません。

IV リタイアメント層の「3つの寿命」

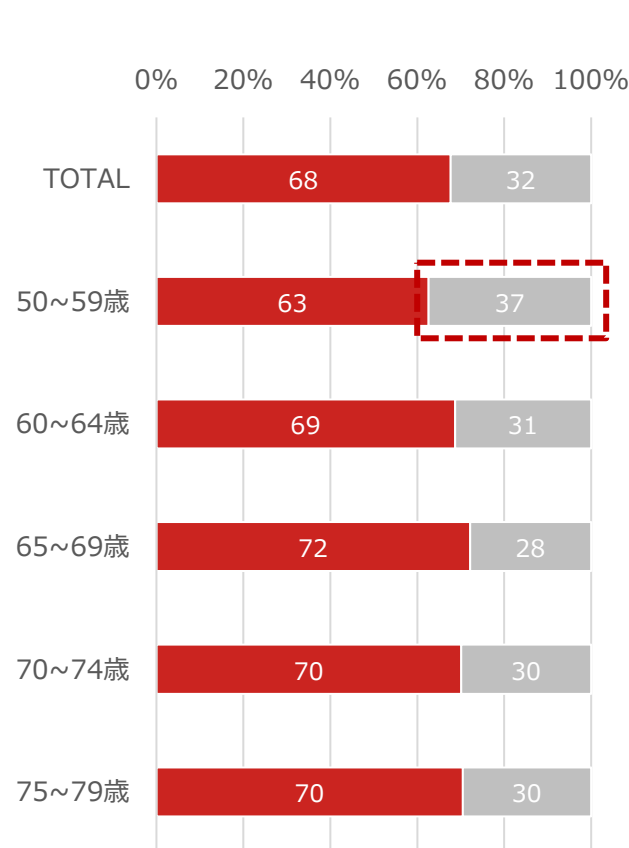
－ 見えない資産寿命 －

3つの寿命の想定

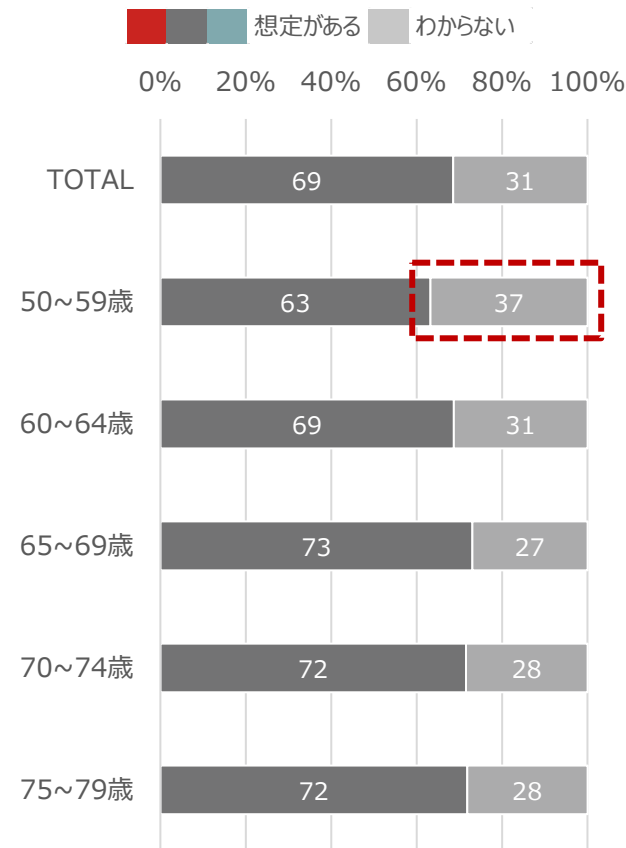
- 生命寿命・健康寿命・資産寿命を「わからない」と回答した割合はいずれも50～59歳で最も高い
- 資産寿命については全体の約48%が「わからない」とした

Q) 「生命寿命」、「健康寿命」、「資産寿命」についてお伺いします。それぞれについて、これからどれくらいの期間続いていくと考えていますか。(単一回答 全体 n=10,710)

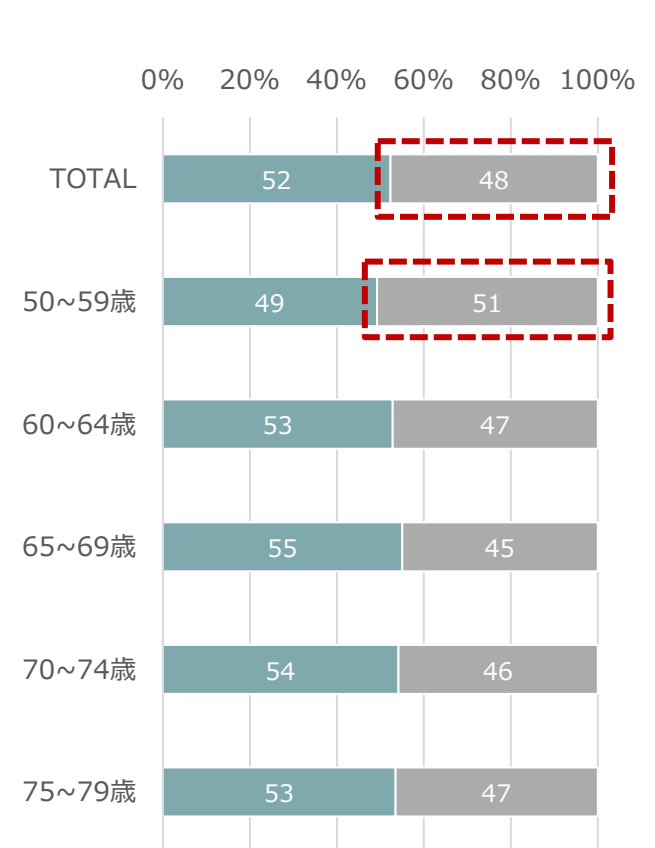
生命寿命 (これからの人生が続いていく期間)



健康寿命 (健康で自立した生活ができる期間)



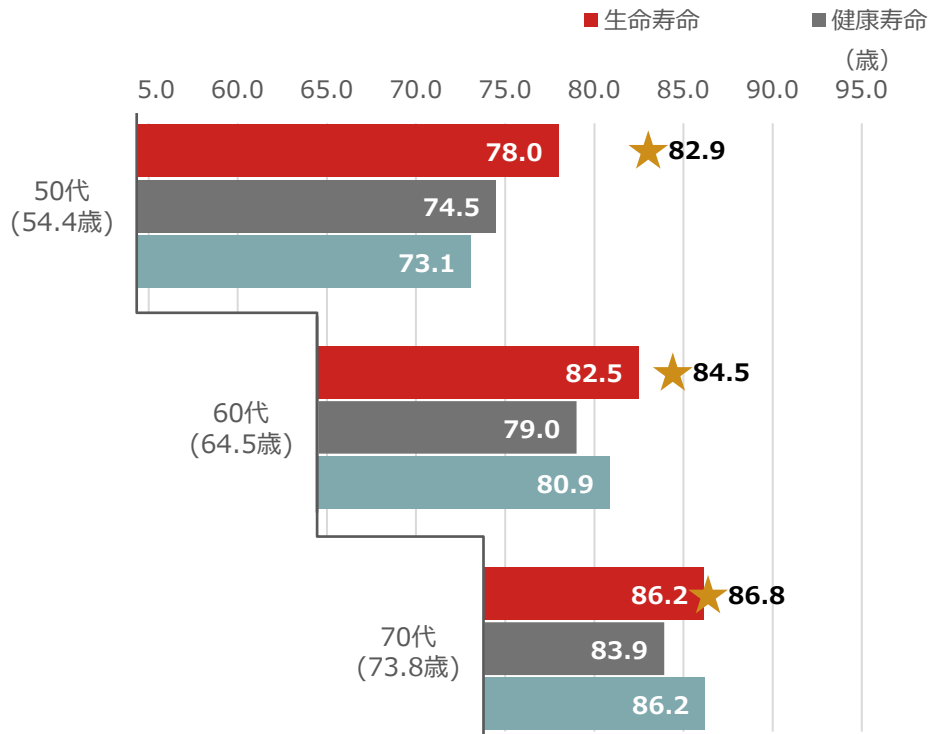
資産寿命 (貯蓄や金融資産が維持できる期間)



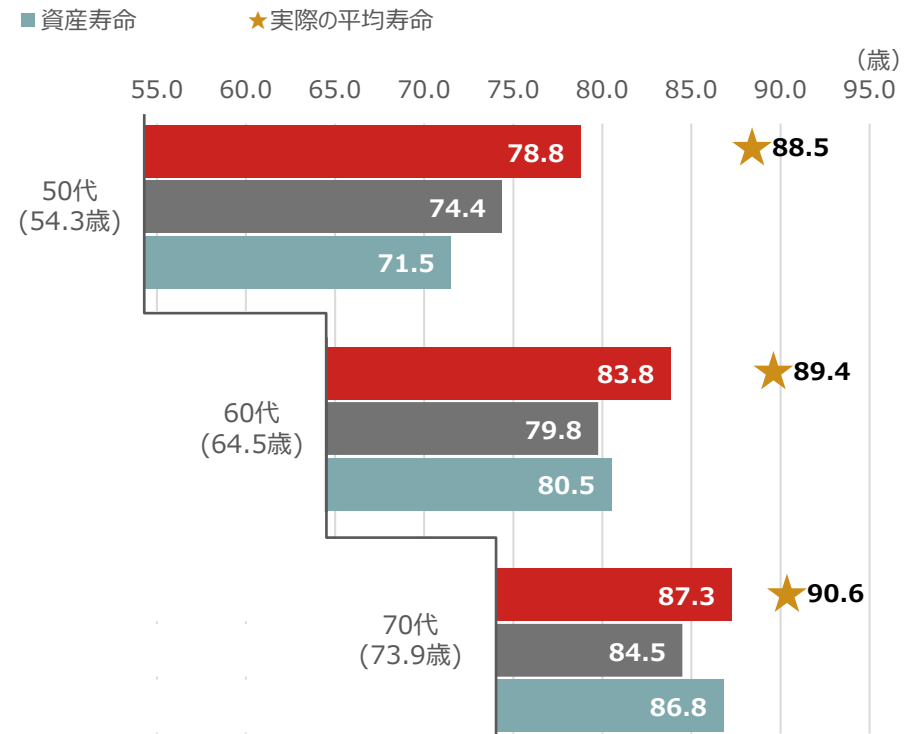
生命・健康・資産寿命（男女別）

- 回答者が想定する自身の生命寿命・健康寿命・資産寿命を年代別に数値化※1。50代は、60・70代と比較して、想定する生命寿命が実際の平均寿命より短い※2。また、資産寿命と生命寿命の差も大きい

男性 生命・健康・資産寿命 回収数は※3参照



女性 生命・健康・資産寿命 回収数は※3参照



※1 各寿命の値は小数点第1位まで表示

※2 () 内は各年代の回答者の平均年齢 (【男性】50代：54.4歳、60代：64.5歳、70代：73.8歳 【女性】50代：54.3歳、60代：64.5歳、70代：73.9歳)。この平均年齢に、「これからの人生が続いていく期間」、「健康で自立した生活ができる期間」、「貯蓄や金融資産が維持できる期間」を加えて、それぞれ「生命寿命」「健康寿命」「資産寿命」とした。また、実際の平均寿命は、平均年齢にその年齢における平均余命年数（厚生労働省「令和6年簡易生命表の概況（<https://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/life/life24/index.html>）」による）を加算したもの

※3 各寿命について、「想定がある」人は以下の通り

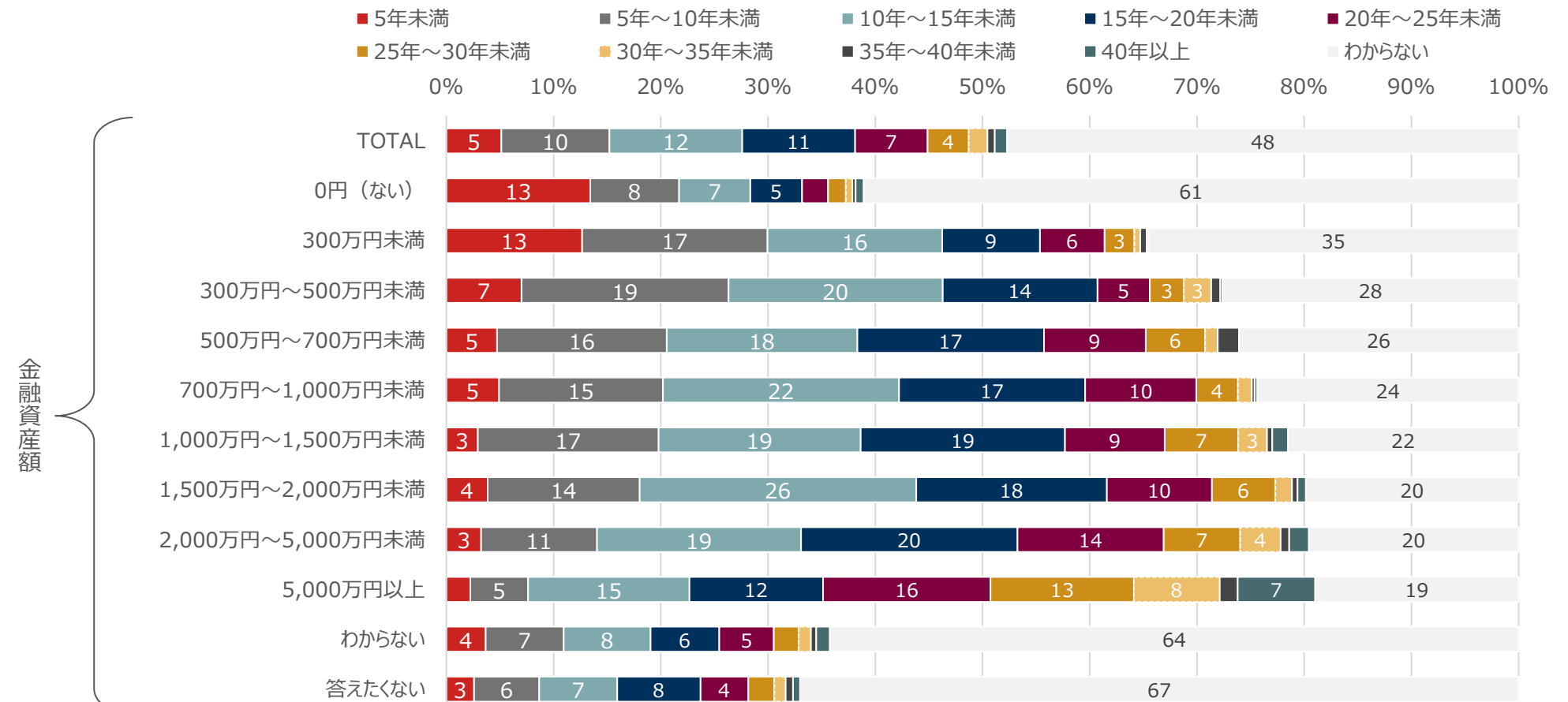
<生命寿命> (男性：n=3,671、女性：n=3,579) <健康寿命> (男性：n=3,679、女性：n=3,665) <資産寿命> (男性：n=3,014、女性：n=2,588)

当資料は調査の内容を開示することを目的として野村アセットマネジメントが作成したものです。投資勧誘を目的とした資料ではありません。当資料は信頼できると考えられる情報に基づいて作成しております。当資料に示された内容等は、当資料作成日現在の当社の見解であり、事前の連絡なしに変更されることがあります。当資料中のいかなる内容も将来の投資収益を示唆しないし保証するものではありません。また特定の銘柄の推奨や売買等を示唆するものではありません。

金融資産額と資産寿命

- 金融資産額の多寡により多少の差異はあるが、資産寿命を「5年～10年未満」「10年～15年未満」「15年～20年未満」と想定する人が多い
- 金融資産額が増加するにつれて、資産寿命がわからない人の割合は減少する

金融資産額と資産寿命 (全体 n=10,710)

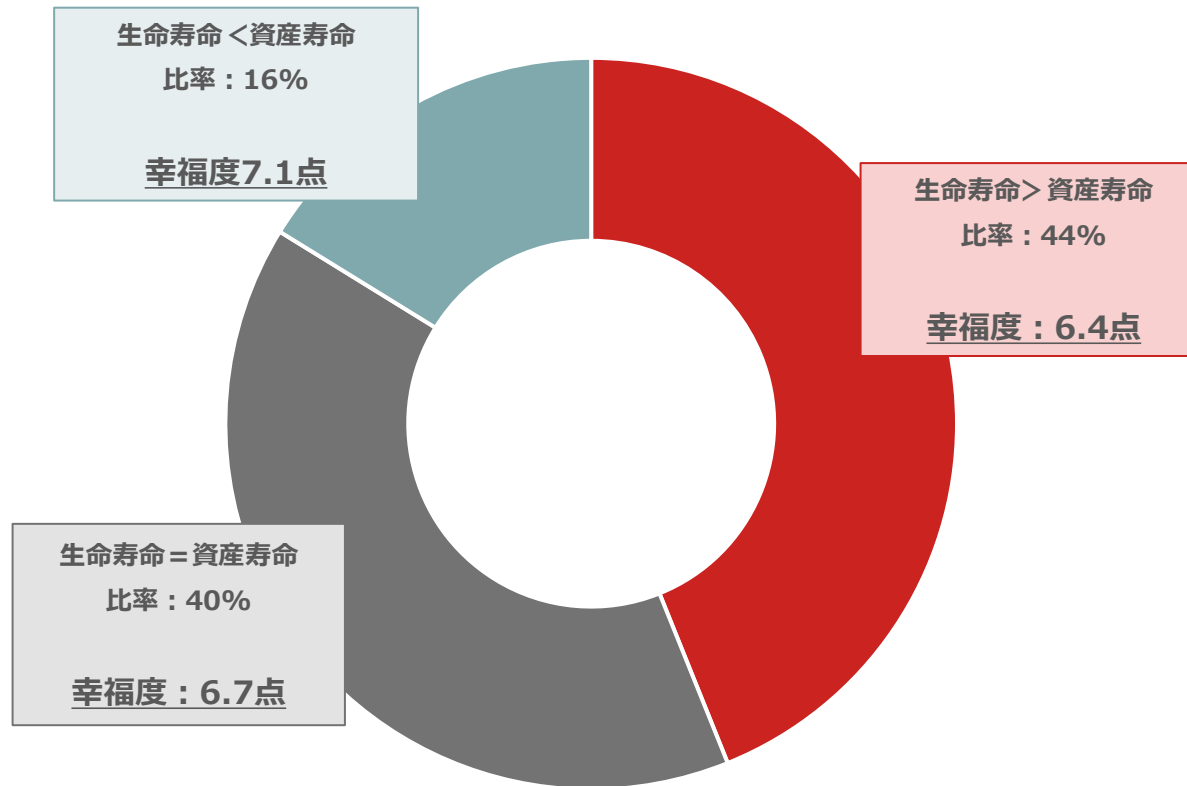


当資料は調査の内容を開示することを目的として野村アセットマネジメントが作成したものです。投資勧誘を目的とした資料ではありません。当資料は信頼できると考えられる情報に基づいて作成しております。当資料に示された内容等は、当資料作成日現在の当社の見解であり、事前の連絡なしに変更されることがあります。当資料中のいかなる内容も将来の投資収益を示唆ないし保証するものではありません。また特定の銘柄の推奨や売買等を示唆するものではありません。

生命寿命 VS 資産寿命

- 回答者別に生命寿命と資産寿命を比較すると、生命寿命が資産寿命より長いと回答した人は4割を超える
- 幸福度の平均値をみると、生命寿命 > 資産寿命の層は6.4点、生命寿命と資産寿命が同水準の層は6.7点、生命寿命 < 資産寿命の層は7.1点。生命寿命に十分に見合う資産を築けていると感じている人ほど幸福度が高い傾向

生命寿命と資産寿命（生命・資産寿命のいずれかについて「わからない」と回答した人を除く n=5,331）



（参考）資産寿命について「わからない」と回答した人の幸福度：6.2点

V リタイアメント層のお金の使い方

－ 実はお金を使いたい？ －

取り崩し金額

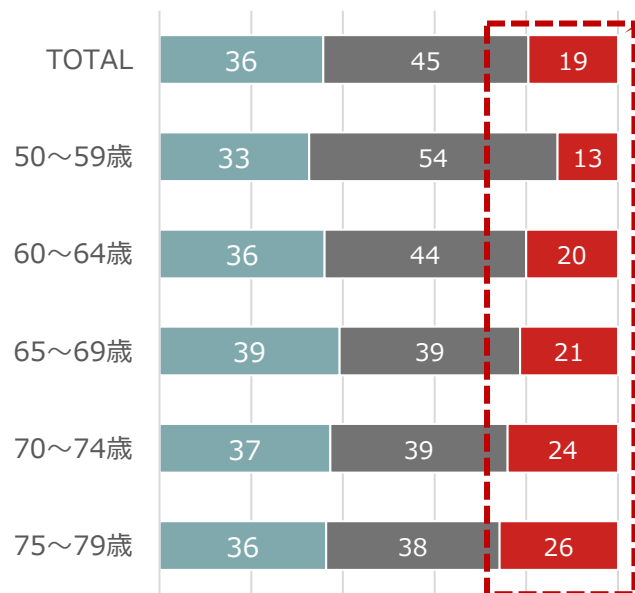
- 老後資金の取り崩しについて「取り崩している/取り崩す想定がある」とした人は全体の2割。年代が上がるにつれてその比率が増加する
- 取り崩す金額をみると、年代ごとにばらつきがあるが、平均金額は年間約63万円

Q) 老後資金について、どれくらいの金額を貯蓄・資産から取り崩して支払いに充てていますか。最近の1年間についてお答えください。現役の方はリタイア後のことを想定してお答えください。
(単一回答 全体 n=10,710)

取り崩しをしているか/取り崩す想定があるか

- 取り崩していない/取り崩す想定がない
- わからない
- 取り崩している/取り崩す想定がある

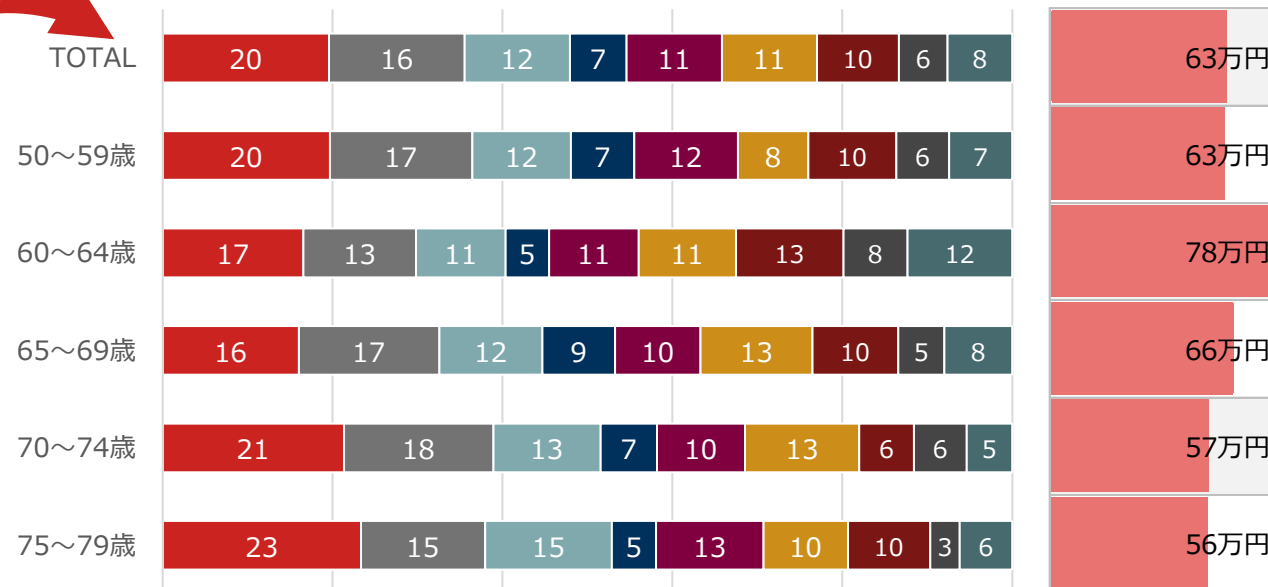
0% 20% 40% 60% 80% 100%



取り崩しをしている/取り崩す想定がある人の取り崩し金額の平均と分布

- 年12万円未満
- 年12～24万円未満
- 年24～36万円未満
- 年36～48万円未満
- 年48～60万円未満
- 年60～100万円未満
- 年100～120万円未満
- 年120～180万円未満
- 年180万円以上

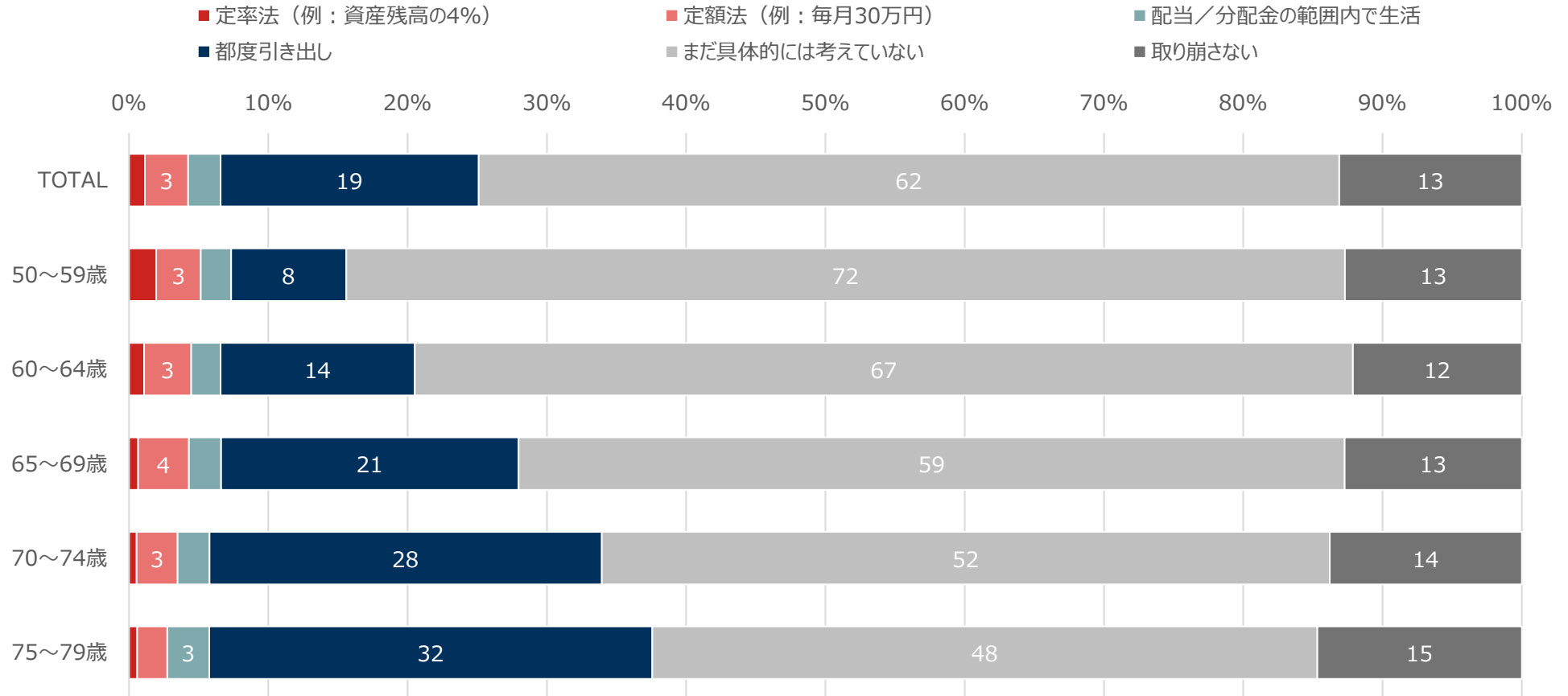
0% 20% 40% 60% 80% 100% 平均値 (万円)



取り崩しの方針

- 取り崩しに関して「定率法」「定額法」「配当/分配金の範囲内で生活」など方針を定めている人はごくわずかである
- 「方針がある」と回答した人の内訳は、「定率法」1%、「定額法」3%、「配当/分配金の範囲内で生活」2%

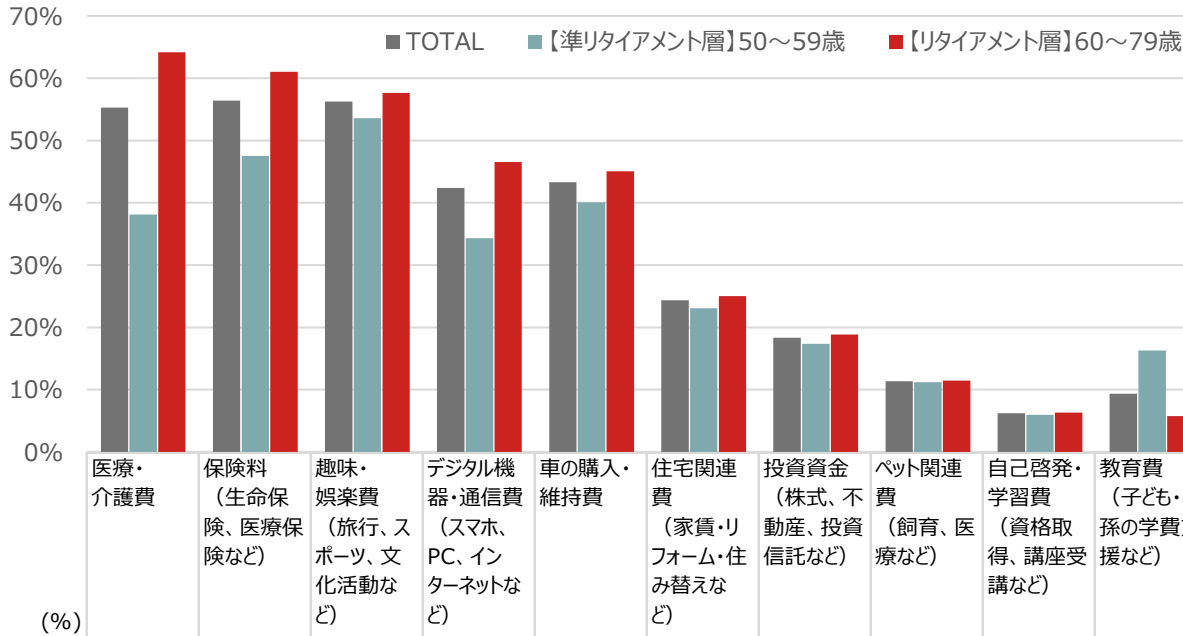
Q) 老後資金について、貯蓄や金融資産を計画的に取り崩すなどの資金管理をしていますか。現役の方はリタイア後のことを想定してお答えください。(単一回答 全体 n=10,710)



現在使っているお金

■ リタイアメント層では「医療・介護費」「保険料」「趣味・娯楽費」が上位を占める

Q) 以下のお金についてそれぞれお答えください。・現在使っているお金・これまでに使ってよかったお金・これまでに使って後悔したお金。（複数回答 全体 n=10,710）



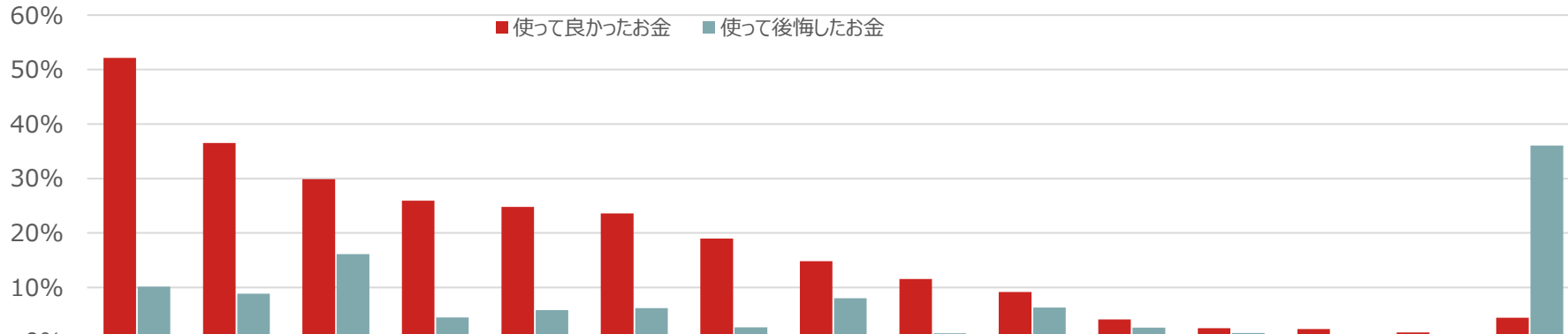
	医療・介護費	保険料（生命保険、医療保険など）	趣味・娯楽費（旅行、スポーツ、文化活動など）	デジタル機器・通信費（スマホ、PC、インターネットなど）	車の購入・維持費	住宅関連費（家賃・リフォーム・住み替えなど）	投資資金（株式、不動産、投資信託など）	ペット関連費（飼育、医療など）	自己啓発・学習費（資格取得、講座受講など）	教育費（子ども・孫の学費支援など）	寄付	終活費用	社会活動・ボランティア関連費	贈与・相続準備資金	その他
TOTAL	55	56	56	42	43	24	18	11	6	9	4	4	3	2	4
【準リタイアメント層】50～59歳	38	47	54	34	40	23	17	11	6	16	2	4	1	1	5
【リタイアメント層】60～79歳	64	61	58	47	45	25	19	11	6	6	5	5	3	3	4
60～64歳	54	60	56	47	47	25	21	14	5	7	4	3	2	2	4
65～69歳	65	63	59	49	48	25	19	14	7	5	5	5	2	2	4
70～74歳	69	62	58	46	46	24	17	10	6	6	5	5	4	4	4
75～79歳	68	58	57	45	39	26	19	8	7	5	6	6	5	3	3

当資料は調査の内容を開示することを目的として野村アセットマネジメントが作成したものです。投資勧誘を目的とした資料ではありません。当資料は信頼できると考えられる情報に基づいて作成しております。当資料に示された内容等は、当資料作成日現在の当社の見解であり、事前の連絡なしに変更されることがあります。当資料中のいかなる内容も将来の投資収益を示唆ないし保証するものではありません。また特定の銘柄の推奨や売買等を示唆するものではありません。

使って良かったお金・使って後悔したお金

- 使って良かったお金は「趣味・娯楽費」「車の購入・維持費」「保険料」の割合が高い
- 「後悔したお金」で「その他」の割合が高いが、このうち約95%は「なし」「特になし」（自由記述）に類する回答であった

使って良かったお金・使って後悔したお金（全体 n=10,710）



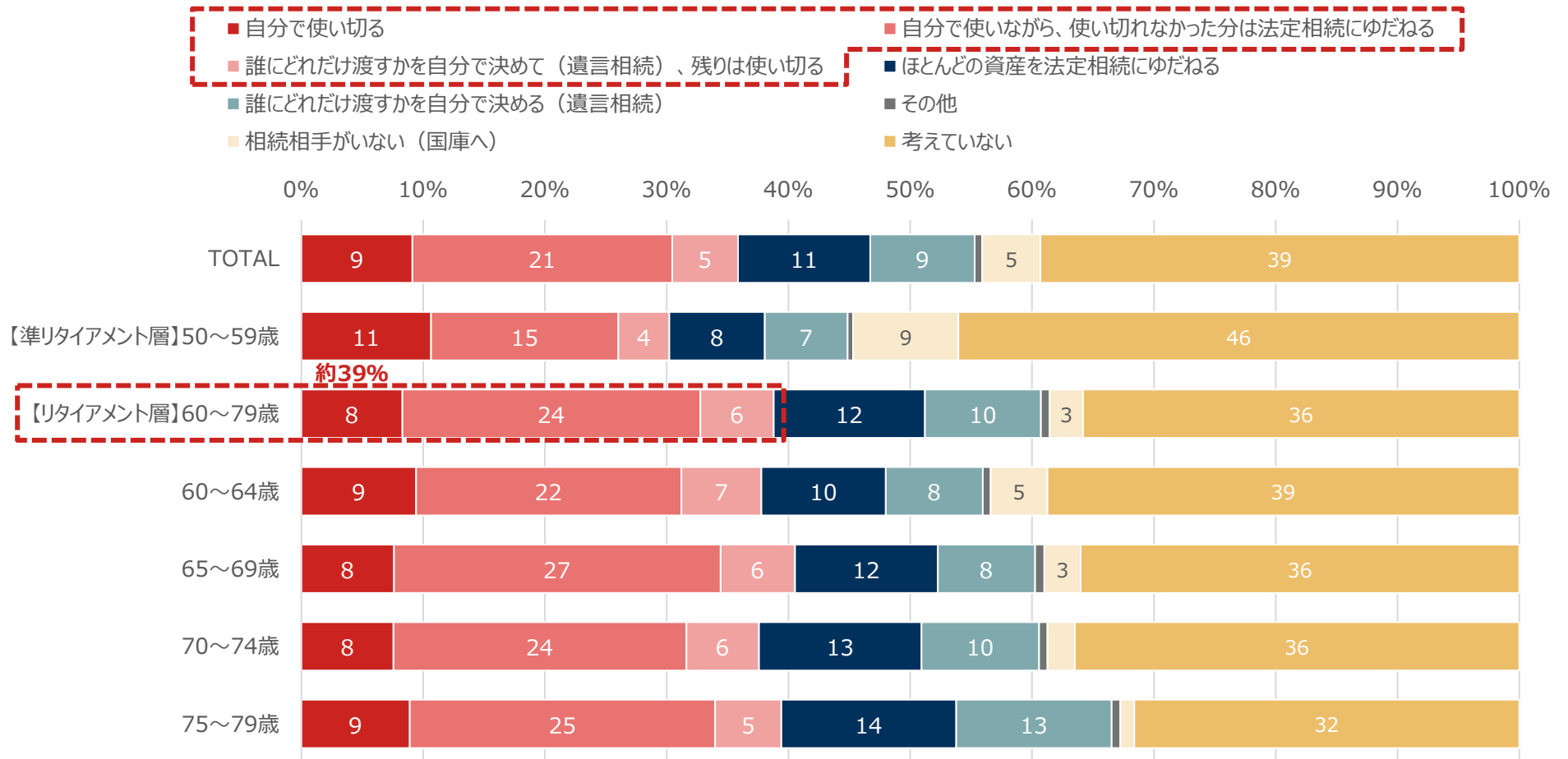
	趣味・娯楽費	車の購入・維持費	保険料	医療・介護費	デジタル機器・通信費	住宅関連費	教育費	投資資金	ペット関連費	自己啓発・学習費	寄付	社会活動・ボランティア関連費	終活費用	贈与・相続準備資金	その他
使って良かったお金	52	37	30	26	25	24	19	15	12	9	4	3	2	2	4
【準リタイアメント層】50～59歳	52	33	22	18	21	17	19	13	12	8	3	2	2	1	6
【リタイアメント層】60～79歳	52	38	34	30	27	27	19	16	12	10	5	3	3	2	4
使って後悔したお金	10	9	16	5	6	6	3	8	2	6	3	2	1	1	36
【準リタイアメント層】50～59歳	14	9	16	5	6	6	3	5	2	8	3	2	1	1	32
【リタイアメント層】60～79歳	8	9	16	4	6	6	2	10	2	5	3	2	1	1	38

当資料は調査の内容を開示することを目的として野村アセットマネジメントが作成したものです。投資勧誘を目的とした資料ではありません。当資料は信頼できると考えられる情報に基づいて作成しております。当資料に示された内容等は、当資料作成日現在の当社の見解であり、事前の連絡なしに変更されることがあります。当資料中のいかなる内容も将来の投資収益を示唆しない保証するものではありません。また特定の銘柄の推奨や売買等を示唆するものではありません。

資産承継の方針

- 資産承継については、「考えていない」と回答する人の割合が多い
- 「考えていない」を除くと、何らかの形で「自分で使う」ことを選好する人が多い（リタイアメント層の約39%）

Q) 資産の承継についてどう考えていますか。あなたの考えに最も近いものをお答えください。(単一回答 全体 n=10,710)





野村アセットマネジメント
資産運用研究所

商号：野村アセットマネジメント株式会社
金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第373号
加入協会：一般社団法人資産運用業協会／
一般社団法人第二種金融商品取引業協会